

観音寺中学校 道德通信 10月号

合唱コンクールに向けて、朝も昼も放課後も、校舎のあちらこちらから素敵な歌声が聞こえてきています。「クラスみんなで心を合わせて、ひとつのものを創り上げる」ことは、決して楽ではないし大変なこともあります。みんなで充実した時間を共有し、達成感を味わうことができるとても貴重な経験ができていますね。



2年生 「異なり記念日」

聴覚に障害がある両親と正常な聴覚をもった子ども（樹さん）が、お互いの「異なり」を大切に感じた場面が取り上げられています。ドラッグストアで楽しい音楽が聞こえてきて喜ぶ樹さんは、お父さんに伝えようとしますが、お父さんには音楽が聞こえません。樹さんは、お父さんが耳が聞こえないことを初めて認識して困惑しますが、お父さんと話をする中で、お互いに違うんだと納得します。家族であっても一人一人は同じような存在ではなく、それぞれがすばらしい個性をもった異なる存在です。その「異なり」が尊いものであると気づき、互いに尊重し合い、支え合って生きていこうとする姿が描かれています。

○授業を通しての感想(生徒記述より)

「異なり記念日」とは、家族のことをもっと知ることができた日であって、お父さん、お母さん、樹さん、みんな違うところがあるけれど、それを認め合って、助け合って過ごしていこうね、と話して決めた日だと思った。2歳の樹さんにとっては、(音楽が聞こえないことが) どうして?と不思議に思ったと思うけれど、お互いを受け入れ合って過ごすということを理解した日だと思った。

家族の中で自分だけ耳が聞こえて、両親は聞こえないという事実がすごく辛いことのように思ったけれど、お父さんと樹さんが話をして、理解し合えたことが「異なり記念日」だと思った。お互い違うけれど、支え合って生きていこうと思えたり、違うことは悪いことではないと樹さんが理解できたりした日だと思った。

みんな違うのが当たり前だけれど、その当たり前をどう説明するのか、それをどう理解するのが大切だと思った。異なり・違いは、自分とは違う新しい道を見つけ出すチャンスだと思うので、大切にしたい。

「異なり記念日」とは、お互いに違うところがあるのを知ることができて、それでも楽しく生きていけることを学んだ大切な日のことを言うのではないかと思った。昨日の人権講演会でのお話(ろうあ協会近藤さん)もあったので、聞こえない人も楽しく生きていけるように、助け合うことが大切だと思った。

人と人がお互い分かり合うためには、相手のことを知ろうとすることや、違いを認め合うことが大切だと思った。

耳が聞こえなくても、ちゃんと人は通じ合っていてわかり合えるんだなと思った。人と人は違っていても、悪いことではなく逆にいいこと、と知ってとても良いなと思った。

道徳通信 9月号の返信より

- 道徳学習は、家庭においても学校、社会においても欠かすことのできない大切な科目だと思います。いつも、自分への戒めや教訓として、拝読しております。モラルやマナーを守れる大人でいたいし、子供にも大人が模範を示さないといけないと感じております。これからも様々な事例を通して学び続けたいと思います。
- 自分の考えに自信を持つことも大切ですが、子供には周りの人の良い考えをどんどん取り入れて、豊かな心を持った大人になってほしいなと思いました。

♪ご返信、ありがとうございました♪

お知らせ

今年度の道徳通信は、5月号以降ミッタメールでも配信しています。「返信欄」の代わりに、ご意見や感想がございましたらミッタメールのアンケート機能として「返信欄」を設けておりますので、そちらからご回答ください。たくさんのご返信をお待ちしております。